

## 中期経営計画 Vision2016 説明会 主な質疑応答

Q1: 中長期的に見て、経営や事業に対する大きなリスクはありうるか？

A1: アナログからデジタルへの移行時のような激変はまずないだろう。フラットパネルディスプレイ材料事業も引き続き液晶がディスプレイの本命であり、安定的な業績が期待できる。メディカルシステムは成長分野であり、コストダウンによる利益拡大の余地もある。医薬事はアンメットメディカルニーズに応えていくことでまだまだ伸ばしていける。

Q2: ドキュメント事業について 5-10 年先の業績予想で少し慎重になっている競合もあるが、縮小傾向になると見ているのか？

A2: 紙媒体は、新興国市場での伸びもまだまだ期待できる中、基本的になくなるようなことはないだろう。事業としてもハードだけでなく、高付加価値のサービス事業やソリューション事業を伸ばしており、急激な変化もないだろう。

Q3: キャッシュの用途について、成長投資と株主還元との優先順位は？

A3: どちらを優先させるかと問われれば、成長投資。当社は長期的な視点で成長投資を重視した経営によってデジタル化の変化にも対応できた。まずは会社が生き抜くことが前提だが、その上で成長と還元のバランスの取れた用途を検討していく。過去の投資によって事業基盤が整いつつあり、今後は株主還元についてもより重視していくステージにある。

Q4: 利益成長のための施策については前回中期とあまり大差ないように思えるが、同様の施策で今後は本当に成長が可能なのか？

A4: 事業環境は大きく変わらないものの、地力がついてきたことで達成は可能。要素は同じでも内容が違っており、例えばデジタルカメラ事業でもXシリーズなど高収益の製品が出てきた。今後3年間は、収益の柱は変わらないものの、その先の収益源が育っていく時期となろう。

以上